



↑ うけどうおいちば 請戸魚市場の様子



《 カレイ 》



《 カニ 》



《 タコ 》



《 アイナメ 》

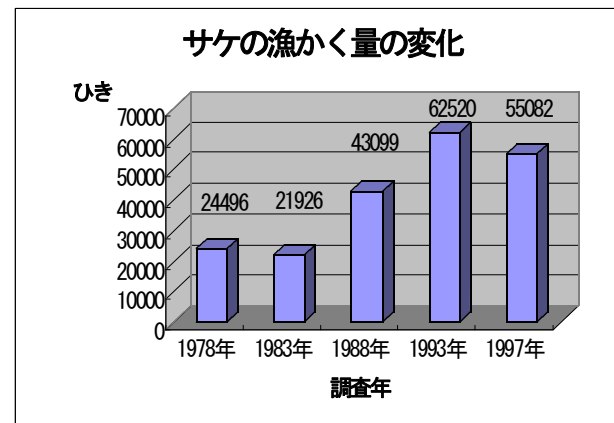
漁業を生かした町づくり

海べの人々は、漁業を生かしてどのような町づくりをしているのでしょうか。

水あげされた魚は、魚市場でせりにかけられたあと、県内やほかの地いきに生きてままトラックで運びます。高速道路の発達によって、早く遠くへ送ることができるようになりました。

町を流れる請戸川では、秋になると、たくさんのサケが川にのぼってきてサケの漁がさかんになります。

「やな」という、魚をとるためのしかけを作った「やな場」でサケをとります。



ひびきくんのお父さんの話

請戸川のサケ漁の歴史は古く、明治時代から人工的にたまごをかえして放流してきました。現在、毎年およそ1500万びきの稚魚を放流しています。そして、半分くらいがまた、請戸川にもどってきました。たくさんのサケがもどってきてほしいと願っています。



↑ うけどがわ 請戸川のやな場

とれた魚はどこに運ばれるのだろう。

